土・まち・みどり

通信第20号

2005.8.12

発行　土とみどりを守る会

連絡先　3718－8558（柳島）

CONTENTS ◆５月のつどい第１部 奥沢コンサート　◆おくさわ今と昔 ◆ケヤキ保存運動のご報告◆グリーンサムのお庭拝見
◆樹と人と　◆会からのお知らせ

5月のつどいレポート

第１部奥沢コンサート♪ゆりの木女声合唱団のコーラス

５月29日のひるさがり、奥沢東地区会館に楽しい歌声が響き渡りました。土とみどりを守る会５月のつどいの奥沢コンサートです。お揃いの黒いスカートにオレンジのブラウス姿の〈ゆりの木女声合唱団〉１６名の方々が､栗原愛子さん(奥沢２丁目在住)の指揮のもとに美しいハーモニーの数々を披露して下さいました。

「はなびとほし」－流れ星が流れて星が少なくなったから、花火が星になりました－という可愛い曲に始まって、「村のたんぽぽ」「たんぽぽのわたげ」フッと息をかけ綿毛を飛ばして遊んだ幼い頃に思いを馳せました。楽しい曲の数々に心を遊ばせたひとときでしたが中でも圧巻は「夢のメドレー」でした。見上げてごらん夜の星を・夜明けのうた・いつでも夢を・みんな夢の中と続く名曲のメロディにのった巧みなコーラスで、自然に夢の世界に浸ってしまいました。最後に「夏は来ぬ」を合唱し、会場が一体となったコンサートを終りました。(柳島)

〈ゆりの木女声合唱団〉は、八幡小学校ＰＴＡコーラスを母体にして始まり子どもの成長と共に独立した、歌うことが大好きなお仲間のグループです。校庭にあるシンボルのゆりの木のようにすくすく成長したいとの願いをこめて名前をいただいて、十数年続いています。指導は栗原愛子さんで団員は現在21名、月曜日の午後に尾山台地区会館音楽室で練習しています。

おくさわ今と昔

このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と
新しく移ってきた方々など、毎回２人の住民の方が登場し、
このまちにちなんだエピソードを語っていただきます。

昔は奥沢にもこんなものがありました

奥沢２丁目 31　平野肇

昭和８年、私の一家が越してきた頃の奥沢は、まだ麦畑やネギ畑が広がるのどかな住宅地だった。現在は暗渠となり、桜並木が続く九品仏川緑道は当時呑川と呼ばれ、川エビやドジョウがたくさん泳いでいて、子供たちのかっこうの遊び場になっていた。

あの頃は今の子供たちとは、まったく遊び方が違っていたように思う。当時小学校４年生だった私は、いたずらごっこに明け暮れた。昔はからだの大きなガキ大将が何人もいて、子分のように下級生をしたがえ、「おまえはこれをしろ」、「あれをやれ」と指図しながら、グループの面倒を見ていたものだ。

さて、奥沢駅から神社の方へ歩くと、左側には桜並木に囲まれた野球場があった。ここは大手電気会社「明電舎」(本社は品川区大崎にあった) のグラウンドで、シーズン中は毎日熱戦が行われていた。立派なスタンドも整備されていて、住民たちも観戦できた。もちろん無料である。

グラウンドの向かい側には、蕎麦屋、果実屋、理髪店などが軒を並べていたが、中でも目を引いたのは商号が「⊕」(マルジュウ) という製パン店だった。当時は現在と違って、パンが主食の地位ではなく、菓子パン全盛時代だったので、“食パン普及” に懸命であった。そのため、毎日曜日は特売日となり、平日一斤 10 銭の食パンが９銭で買えた。

駅前の線路沿いには鰻の「近三」(キンサン) という店があり、店内は狭いが味がよかったので、主として出前で繁盛していた。その付近はいつも鰻を焼く香ばしい煙が道路まで溢れていたことを思い出す。

現在、「洋服コナカ」が建つ場所にあった「森永製菓」の売店兼パーラーは、子供たちの憧れの的だった。ここにはアイスクリームやスナック、洋菓子など、ハイカラなデザートが揃っていた。

これらの店は、いつのまにか代替わりとなり、懐かしい風景とともに消えてしまった。
今はもう、遠い遠い思い出の中で、蜃気楼のようにゆらいでいるだけだ。

●平野さんの原稿を拝見していて、昔の奥沢駅あたりの図面をつくって掲載したいと考えました。長くお住まいの方々に子ども時代の記憶を思い起こして頂き、次号にまとめたいと思います。お楽しみに・・・

レトロに出会えるまち

奥沢２丁目 33 「カイコ洋装舗」 中井恵実

自由が丘から一歩抜け出して自由通りから緑ヶ丘方面に少し入ると、街並みがとたんに彫りの深い表情になります。年月に磨きぬかれた家々は不思議と温かみを感じさせるリアリティがあり、その時代を知らない世代にも懐かしさを感じさせてしまいます。

ここはまだまだ大正時代や昭和初期の建物が残っているところで、実際に生活していて手入れも行届いています。どの家も物語が浮かんでくるような佇まいで、よそのお宅とは知りながらついつい見とれてしまうこともあります。比較的新しいお家もお庭も個性的で素晴らしく、住んでいる方の趣味の良さが伺われます。

私自身も大正末期に建てられたという家をシルクドレスとオーディオのアトリエショップにさせていただいております。まず鉄の門の前に立って見上げるとオレンジ色の三角形の屋根が印象的で、門を入り 5m くらいのアプローチの先にブルーグレーの扉があります。その昔の海軍村を偲ばせる桜と錨のデザインで、その両脇には当時の洋館らしい出窓があります。とても目を引くらしくテレビドラマにもたびたび出演しています。その後アトリエショップの取材をしにきた音楽の友社「ステレオ」誌のカメラマンもとても感激して、目的の新藤ラボ真空管アンプよりも洋間の造作を撮影していました。

その時代を知っているご年配の方々はもちろん若い人たちにも大人気です。南側の窓からは黒井邸のお庭が見え借景を楽しませていただいております。四季折々の花が咲き夏には広葉樹の葉が茂り木漏れ陽となってきらめいています。ここで音楽を聴いていると都内とはおもえない静寂さです。とても心が落ち着くとおっしゃって毎週レコードを聴きにこられるお客様もいらっしゃいます。

単なるはやりではない本物のレトロに出会うことが出来ます。奥沢に散歩にいらしたら是非お立ち寄り下さい。

署名のご協力ありがとうございました

次世代に伝われ大ケヤキ

－大ケヤキ保存運動のご報告－

1. ケヤキの呟き「なぜ？どうして？」

奥沢２－23－21の大ケヤキは、２丁目のシンボルとして住民の心の拠り所になっていました。この場所は会の共同代表の一人であった近藤泰夫さんの所有地でした。敷地内に２本の保存樹木(ケヤキ)があり、この界隈は「大ケヤキのある散歩道」として区の地域風景資産に選定され、土とみどりを守る会も風景づくり活動団体として登録されていました。しかし、ご事情はあったのでしょうが会のメンバーには相談も無く売りに出されたのです。土地は不動産販売会社の所有となりました。

３月に家が取壊され、大ケヤキ１本を残して他の樹木(保存樹木１本を含む)がすべて切られました。３月末には、大ケヤキは区によって大分切りつめられました。そして土地の販売が始まりました。不動産販売会社に譲渡する際大ケヤキを保存継承する条項が付いていたそうですが、４月10日入手した販売資料は伐採を前提としたものになっていました。それを見て「大ケヤキを次世代に伝える会」による、ケヤキを残そうという署名運動が始まりました。

２．署名運動の広がり

木が倒れる危険があるから伐採してもらいたいとのご意見が近隣から出ているというので、会として樹木医の診断を受けるために区の土木課を通じて土地所有者に調査の許可をお願いしましたが、立入りを断られました。４月23日に、会の独自の判断で敷地外から診断を受けました。結果は建築の根切りの方法などに適切な配慮をしないと、最悪の場合倒れる危険があるということでした。この結果は勿論業者に報告しましたが２分割の売出し広告を撤回しないまま大型連休を迎えました。

一方で署名は大きな盛り上りを見せ、拡がっていきました。会では大ケヤキに隣接する20軒のお宅に、大ケヤキに関する御意見をうかがいました。木の葉が落ちる・雨樋が詰まるというお話にはどう対処するかを考え、ケヤキファンドの設立を提案しました。枝が落下して危険ゆえ伐採をというお話はごく僅かでしたが、これに関しては専門家の診断を頼る以外は無いと判断しました。

３．区議会への請願・そして継続審議へ

署名活動は５月10日に締め切り、その数は1357名になりました。５月11日に請願書と署名簿を区議会議長に提出しました。連休後業者は広告チラシを改め、「地域のシンボルツリーと共に暮らす心豊かな生活をご提案します！」「大ケヤキのある散歩道・世田谷区地域風景資産の中心地！」「敷地内に樹齢250年の大ケヤキ(世田谷区指定保存樹木)が生息」という分割無しプランに変更になりました。

５月22日に、お向かいのお宅に長さ約3mの大枝が落下したとの知らせがありました。

５月29日には土とみどりを守る会のつどいがあり、第２部で今迄の経過を説明し出席者の知恵を頂きました。樹木医の正確な診断を受けることを前提に、公園・公共施設の誘致・トラストの小さな森計画など様々な意見が出ました。

５月30日には区議会都市整備委員会が開かれ、請願の趣旨説明を行いました。法的な解釈をめぐって結論が出ず、継続審議となりました。この席上樹木医の診断は必要という合意は得られました。

４．すこやかに育て　大ケヤキ

６月１日に区に目視でない正式な診断を依頼しました。会としては、区が倒木の危険性をまず診断してから次の処置を行う順序になると認識していましたが、区からは連絡が無く、６月23日に区・新しい所有者(一戸建てを予定)・お向かいのお宅の３者が樹木医と話し合い、今の樹形(写真)になったようです。

新しい所有者は、緑を愛し木の命を大切に考えていらっしゃる方で、こういう方に守られて生きていくケヤキはきっと幸せだと思います。「今は小さくなったが今後は剪定をしながら樹形を整え、３年ぐらい後にはいい形になるでしょう」との所有者のお言葉です。

以上が大ケヤキをめぐる経過の報告です。

多くを学んだケヤキと署名活動

大ケヤキを次世代に伝えたいという皆様の声がひとつとなり、ケヤキの大木は奥沢とともにまた歴史を刻んでいくことになりました。署名にご協力頂いたお一人お一人に心から御礼申し上げます。もの言わぬケヤキは、人間界を見下ろしながら、今何を思っていることでしょうか？私たち人間も自然の一部です。謙虚に自然と共生していくことで、環境を守っていきたいと思います。ひとりの力はささやかですが、自分にしかできぬことが必ずこの世の中にはあるはず。それを実行に移せば多くの方々と心がつながることを、今回もまた学びました。私の役目はこれで終りましたが、これからも皆様とともに、私たちの奥沢を心豊かな地域にしてまいりたいと存じます。ありがとうございました。

ケヤキを次世代に伝える会　世話人代表　平野久美子

グリーンサムのお庭拝見 Vol.19

今回は３丁目35番地の石澤家を訪問しました。階段で迎えてくれるのはスイートフェンネル・白いナデシコ・ブルーデージー・キンケイギク・ワイルドストロベリーなど。階段を上がると左にシダ科のヒトツバ・裏の家から来たワビスケ・インカのカタバミのトリアングラリス。玄関前にある沢山の観葉植物の中で目を引くのは50年育てている長い葉のゴムノキと40年のモンステラである。雨水を溜めている甕の横に水生植物のパピルスと野生のカキツバタとツゲ科の富貴草。ヨーロッパの麦畑の雑草で６センチ前後の花が咲くムギセンノウの鉢・薄紫の花のウルイ・コデマリとハコネウツギなどを見ながら歩く。頭上の鉄製アーチに樹齢70年のバラのニュードンとノーゼンカヅラが巻き付き３鉢の着生ランのフーランが吊り下げられている。アーチをくぐると屋根まで届きそうなトマトとアスパラ。側にヤーコン・アロエ・ホタルブクロ・ヒメオウギズイセンと紫蘇・茗荷・山椒。種から育て咲くまでに20年かかったという野生のカキツバタ。白いタマツバキ・ボケ・モクレン・ガクアジサイそして街がお祭りで賑わう頃に咲く金木犀。すべての植物達が色艶よく伸び伸びと育っている。

石澤さんのモットーは、生ゴミを腐葉土に混ぜて発泡スチロールの箱の中で発酵させてサラサラにしたものを肥料とし落葉はそのままに。害虫には殺虫剤を使わず手で取るか鳥にまかせて自然のままにする。このように話す石澤さんの原点は豊橋のおじいさん。３才の頃に畦道で色々な草花の名称を教えてもらったことにあるという。階段を下りると何時の間にか雨は上がり緑がいちだんと輝きを増していました。

（遠藤）

樹と人と －花と実編－

推奨樹木の持ち主の方に、木にまつわる話・木への思いを語っていただくコーナーです。（毛利）

さるすべり＋黒井眞器さん（奥沢２丁目33番地）

「百日紅（さるすべり）は濃いピンク色の紅花が多く、白は珍しいと云われます。庭にある２本の白い百日紅は先代の話によると、紅色を注文したところ白い花の木が届き、再度紅色を注文したら又も白が届いてしまったという、面白い事情で我が家の庭に植えられたそうです。70年か80年前のことでしょう。特に肥料も与えず、秋には古い枝を切り冬を越すと又芽吹いて、夏の暑さにもめげずに美しい花を咲かせてくれます。」

ノウゼンカズラ＋富坂桂子さん（奥沢１丁目40番地）

「我が家のノウゼンカズラは、植えて７～８年は経っています。大きな木蓮の木にからんですくすくと枝を伸ばし、美しいオレンジ色の花をたくさん咲かせて、道行く人も眺めていきます。この花は一日咲いて散ってしまいます。散った花が色も鮮やかに地面に散り敷いている光景も綺麗で楽しめます。一日中おひさまに当ってこれからも美しい花を見せてくれることでしょう。」

会からのお知らせ

●世田谷の緑を訪ねる夏のつどいは、成城の街並みと緑を探訪します。９月26日（月）、午前の予定です。くわしくは後日チラシ・会の掲示板でお知らせ致しますからどうぞ御参加下さい。

●19号で「推奨花と実」の中で黒井邸の白いさるすべりを夾竹桃と発表してしまいました。訂正致します。今号の「樹と人と」の欄に登場していますからお散歩の折に眺めてください。

●５月のつどい終了後に引続いて土とみどりを守る会第３回総会を開きました。昨年度まで３名の共同代表で運営してきましたが、近藤泰夫理事が退会しましたので、共同代表は堀内正弘理事、長瀬雅義理事の２名となりました。

●「推奨花と実」をもっと増やしたいと思っています。自薦他薦を問わず御連絡下さい。よろしくお願いいたします。

●土とみどりを守る会では、会員を募っています。会の活動を支える会費は年間一口1000円です。どうぞ御協力をお願いいたします。

編集後記：「暑い！」と叫んでも「暑い・・・」と嘆いても涼しくはならないのに、つい口に出てしまいます。まだクーラーなど無い昔は「暑いと言うと罰金」と皆できめて、たまるとカキ氷など買いに行った事を思い出します。でも記録づくめだった去年の夏よりはいいのでは・・と期待しつつ、青い空に浮かぶ入道雲を眺め、打ち水でもして涼をとり、秋を待とうと思っています。（Ｙ）

土とみどりを守る会　連絡先

世田谷区奥沢2-19-9　長瀬雅義　5729-0126

世田谷区奥沢2-41-2　柳島尚子　3718-8558